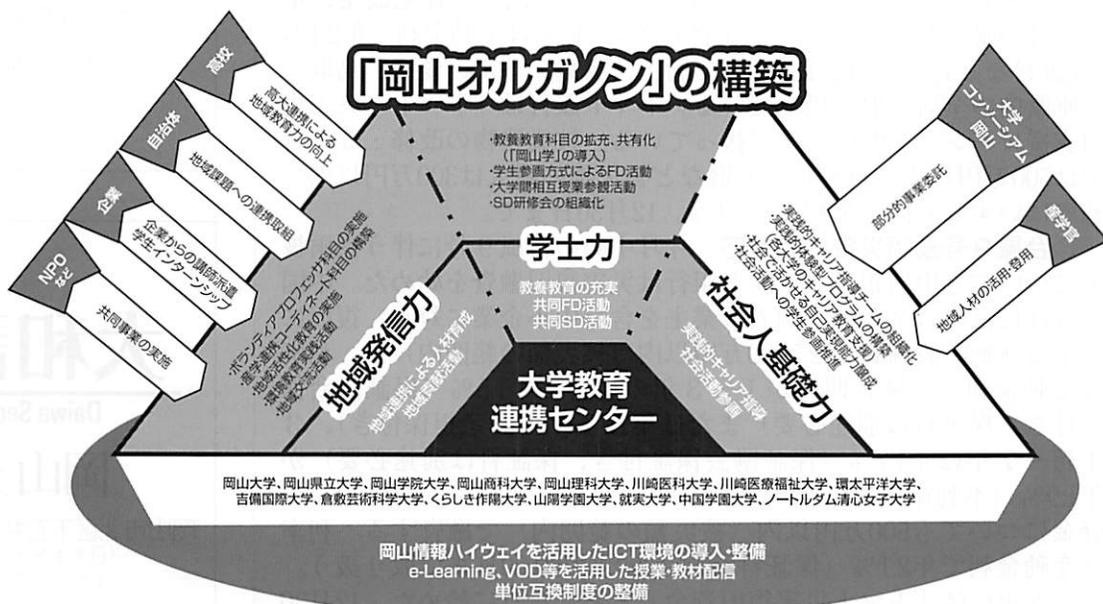


快挙 大学コンソーシアム岡山 文科省の支援プログラムに採択

県内15大学が「岡山オルガノン」構想スタート



県内の15大学がスクラムを組む「大学コンソーシアム岡山」（会長・波田善夫岡山理科大学長）提案事業が文部科学省の支援プログラムに採択された。岡山商科大のボランティアプロフェッサー、岡山理科大のeラーニングなど、各大学の優れた取り組みを共有し、連携を一層強化するための「岡山オルガノン」構想がそれ。この夏、国の「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」に採択され、9月から準備に入る。3カ年計画、計2億円余の予算がつく。岡山での大学コンソーシアムを大きく後押しする。

哲学者アリストテレスの著作からネーミングした大学教育の基礎部分をつくる岡山オルガノンは、コンソーシアム加盟の4年制16大学のうち、15大学が参加する。「学士力」「社会人基礎力」「地域発信力」の三つをテーマに学生たちの能力アップを図り、地域活性化を

担う人材の育成を目指す。学士力向上には岡山大、社会人基礎力は中国学園大、地域発信力は岡山商科大に拠点（サテライトオフィス）を置き、それらを束ねる中核推進機関として「大学教育連携センター」を岡山理科大に設ける。地域人材交流・企画運営などに当たるコーディネーターを配置する。本年度25件採択の一つになった。

コンソーシアムの取り組みを発展

大学コンソーシアム岡山は2006年4月、産学官の“地域力”を結集し、「時代に合った魅力ある高等教育の創造」「活力ある人づくり・街づくりへの貢献」を目的に発足した。県内全16大学が参画し、大学間での単位互換講義をし、学生の職業意識をはぐくむ岡山経済同友会協力の「キャリア形成講座」や中国銀行協力の「ちゅうぎん金融知力講座」、山陽新聞社と共同で行う社会人向け生涯学習講座「吉備創生カレッジ」などを展開している。

設立から4年目を迎え、各大学が個別に行っている講座や事業などを共有、発展させるため、文科省の支援プログラムへの申請を昨年末から準備。5月末に申請し、7月中旬に採択が決まった。競争率は3倍超に上ったが、総合連携型で採択さ

れた。本年度から3年間で2億円以上（本年度は8300万円）の補助金を受け、ハイビジョンのテレビ会議システムなどICT（情報通信技術）環境の整備を進める。

他大学の学生向けにも県の「岡山情報ハイウェイ」やテレビ会議システムを使って講義を配信。学生は自分の大学で他大学の授業を受け、質疑応答もできる。大学コンソーシアム岡山に深くかかわってきた中国学園大・中国短期大の飯田哲司教授は「岡山は単科大学が多いが、だからこそ連携に意味があり、ICTの活用などで総合大学的な魅力やカラーも打ち出せる」と説明する。

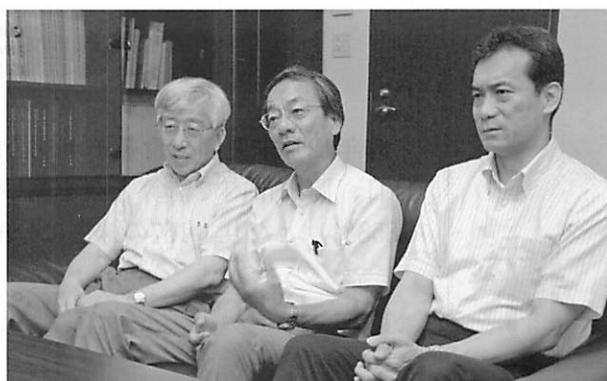
<学士力>岡山大のFD活動広める

学士力は学生たちの「知」の充実を図る。教養教育の充実を図るため、各大学が特色のある科目をインターネットを使って配信、他の大学でも遠隔授業が受けられるようにする。提供する科目は各大学1科目程度。岡山理科大が岡山の自然と人文を題材にした「岡山学」を検討するなど、各大学が工夫を凝らす。

サテライトオフィスを置く岡山大がけん引役。同大学では学生たちが「こんな授業をやってほしい」と提案、「FD（ファカルティ・ディベロップメント＝授業の改善・向上）活動」と呼ばれる学生参加型の教育改善に取り組んでいる。そのノウハウ、手法を他大学にも浸透させる。「岡山オルガノン」の準備に携わってきた岡山理科大の木村宏総合情報学部教授は「『大学全入時代』と言われる今、学生たちの知のレベルを引き上げるため、どういう教育をしていくべきか真剣に考えないといけない」と強調する。

<社会人基礎力>キャリア教育再生

社会人基礎力では、企業人としての資質をはぐくむ「キャリア形成教育」を実施。産学官から人材を集めた指導者チームを編成し、従来の「キャリア形成講座」も一部活用しつつ、実践・体験型のカリキュラムを組む一方、各大学のキャリア教育支援にも当たる。「キャリア教育は就職活動のためだけのものではないはず。われわれがやろうとしているのは、入社から定年までの40～50年間のための自己形成教育。就活支援にとどまらず、学生に入社後何をしたいかを考えさせ、自己実現能力を養う」と飯田教授。学生の地域イベント・交流事業への参加を促すほか、カリキュラムを修了し



コンソーシアムを進める木村、波田、飯田の各氏（左から）

た学生がネット上で情報交換できるようにもする。

<地域発信力>学外人授業を全大学に

地域発信力は、岡山商科大が岡山経済同友会と連携して取り組んでいる「ボランティアプロフェッサー」が柱。同友会のメンバーが“先生”となった授業を、テレビ会議システムを使って他の14大学にも同時中継する。中継先からも質問できるようにテレビ会議システムは双方向、本年度中に各大学へ整備する予定。

地域活性化の担い手として活躍できる人材を育てるため、地域とのかかわりを深めるイベントも企画していく。木村教授は「岡山の大学を出て、岡山で就職したい。そんなマインドをもっともっと高めたい。そのためには地域の産業界の力も借りたい」と話す。

岡山を元気にする原動力

大学コンソーシアム岡山が先進事例に挙げる京都のコンソーシアム。飯田教授は「京都でも組織をつくった際、一部で淘汰や吸収を心配する声もあったそうだが、結果は逆だったという。加盟した大学・短大がコンソーシアムに入ったことで活性化したと聞いた。岡山でもお互いに切磋琢磨する。『岡山オルガノン』を通じて学生たちが一層交流し、教職員も情報交換をできれば。文科省採択は大きな励み」と期待する。

「岡山オルガノン」の取り組みが本格化するのには来年度からだが、本年度は準備を進め、11月下旬に記念シンポジウム「ハッシン！岡山オルガノン」（仮称）を開く。「大学がさびれると、その都市はさびれる。大学が連携して岡山を元気にしていきたい」。大学コンソーシアム岡山の会長になって2年目の波田学長は力を込める。

県内15大学は来年度から、各校の特色あるカリキュラムを共有する教育システム「岡山オルガノン」事業を本格的に始める。新たに導入するテレビ会議システムで講義を同時中継するほか、社会人として必要な資質をほぐくむキャリア形成教育などに取り組み、地域に貢献する人材を育成する。

(内田圭助)

特色ある講義 15大学が共有

参加大学は県内の4
年制大学16校のうち美

作大を除く15大学で、
岡山理科大に新設する
大学教育連携センター
が統括。3大テーマの
「地域発信力」「学土
力」「社会人基礎力」
づくりを中心になって
進めるサテライトオフ
イスをそれぞれ岡山商
科大、岡山大、中国学
園大に置く。

具体的には、岡山経
済同友会員が岡山商科
大で教壇に立つ「ボラ
ンティアプロフェッサ
ー」や県内の自然や文
化について学ぶ「岡山
学講座」の同時中継▽
学生が望む講義を実現
するFD(ファカルテ
ィ・ディベロップメン
ト)活動の共同実施▽
産学官から人材を集め
たキャリア支援指導チ
ームをつくり、実践・

体験型講座の展開な
どを実施する。

県内16大学の連携組
織「大学コンソーシア
ム岡山」提案の同事業
は7月、国の戦略的大
学連携支援プログラム
に採択され、200
9年度の補助は約8
300万円。11年度ま
での3年計画で、本年
度はテレビ会議システ
ムなどの構築を進め
る。

テレビ会議システム
はコンソーシアムで実
施する単位互換制度に
活用。課題となってい
る学生の移動の負担軽
減につなげる。

木村宏・岡山理科大
学外連携推進室副室長
は「各校の得意分野を
結集し、優れた人材を
多く育てたい」として
いる。

来年度から TV会議システム活用

経済同友会員の講座、キャリア支援など

教育改善考える

全国35大学 学生や教職員交流

岡山大

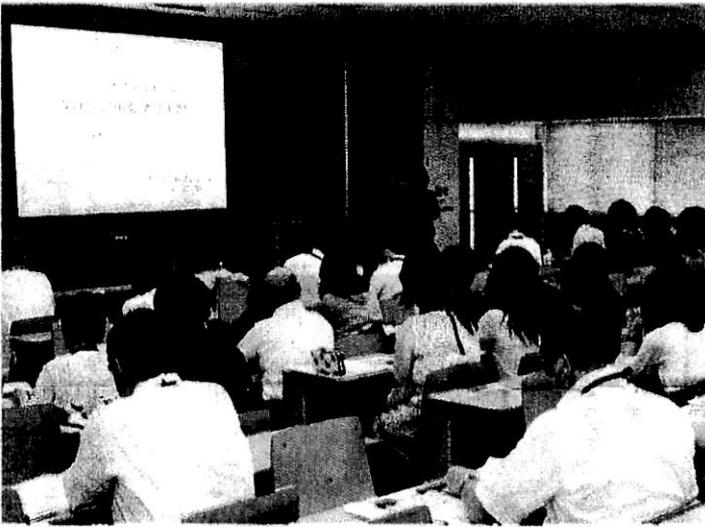
全国の学生や教職員（岡山大学生・教職員 島中の同大で始まった。が大学教育の在り方 教育改善委員会主催）が22日から2日間の日程で、岡山市北区津科大、広島大など35大

学の約1000人が参加。初日は学生が講義への思いや問題点を出し合う討論会、学生主体で進められている教育改善の発表があった。

学生たちは討論会で「授業が分りにくい」「先生が学生の反応を見ていない」と意見交換。シンポジウムでは、学生発案の授業開始に向けて教員と協議中の札幌大や携帯型ゲーム機を使った英語や漢字学習が行われた大分大などが事例紹介した。

同交流は大学教育の質の向上を目指し2004年にスタート。実行委員長の岡山大学文学部2年中里祐紀さん（20）は「理解しやすい講義や積極的に学ぶ学生を増やすために、取り組みを広げていきたい」と話していた。

23日は授業改善への職員参加をテーマにグループ討論がある。（内田光祐）



学生の提案で始まった授業について報告されたシンポジウム

大学教育連携
テーマにシンポ

あす岡山

県内15大学が教育プログラムを共有する「岡山オルガノン」事業で、統括する大学教育連携センター(岡山市北区理大町)の設立

を記念したシンポジウム「ハッシン！岡山オルガノン」が29日午後1時から、同石関町の県総合福祉会館で開かれる。

同センターは8月に設立。シンポジウムでは岡山理科、岡山、岡山商科、中国学園の4

大学が取り組み事例を紹介するほか、立命館大木野茂教授による「学生とともに作る授業、学生とともに進めるFD(ファカルティ・ディベロップメント)」と題した講演もある。申し込み不要で、無料。

COP15サポートイベントをプロデュース

天満屋アドセンター

古刹で環境問題を考えよう。天満屋アドセンター事業部（岡山市北区本町）はデンマーク・コペンハーゲンで7日から開かれる国際環境会議（COP15）のサポートイベントとして13日まで京都・清水寺で開催中の「エコ・コンシャス・デンマーク」の企画・制作・プロデュースを担当している。

デンマーク、スウェーデン、フィンランドの北欧3国で構成するスカンジナビア政府観光局主催。円通殿ではスピーチ&パフォーマンス、アーティストや料理研究家、自然農法を取り入れている農家、環境問題の専門家らが日替わりでメッセージを発信する。経堂ではペットボトルを融解してのいすの製作過程や飛行船などの巨大ポスター、石からつくるストーンペーパー、竹製の自転車などを展示、デンマークにある世界初のカーボン・ニュートラルホテルの紹介などでエコな生

活を呼びかける。オーガニック由来の子ども服のファッションショーもある。また、同寺門前町には「デニッシュ・カフェ&レストラン」も出した。

サポートイベントは東京と京都で開催。空間プロデュース力に定評のある同社に話が持ち込まれた。京の観光資源を会場とするだけに、ディスプレイのための資材には再生可能で施設を傷つける可能性も少ない段ボール箱を利用するなど知恵と工夫をしたそう。同事業部では「うちは環境イベントにも強いというところを世界にアピールできた」と話している。

岡山オルガノン発信

県内15大学の優れた資源の共有、活性化目指す



岡山県内の15大学で構成する「大学教育連携センター」（センター長・木村宏岡山理科大総合情報学部教授）が進める「岡山オルガノン」構想のスタートを記念するシンポジウム「ハッシン！岡山オルガノン」が11月29日、岡山市北区石関町の県総合福祉会館で開かれた＝写真。

センターの中核を担う岡山理科大、岡山大、中国学園大、岡山商科大の4学長が岡山オルガノンへの取り組みの決意表明、現場から「加計サイバーキャンパスを支えるLMS・MOMOTAROについて」（岡山理科大）、「学生・教員・職員の協働を目指す『改善委員会』—学生参画によるFD（ファカルティ・ディベロップメント＝授業改善・向上活動）の活性化」（岡山大）、「産学官連携教育—岡山経済同友会ボランティアプロフェッサー講義について—」（岡山商科大）、「人材育成教育～実践的キャリア形成講座のあゆみ～」（中国学園大）の説明が行われた。

岡山オルガノン構想は各大学の優れた取り組み

人
ふた言

とことん国土



▽…「無駄な道路は一つもない。外国では災害時に途切れぬよう入り組んだ網の形成が重視されている。道路の価値を交通量でなく全体のネットワークをもって評価することが大切」。県土木施工管理技士会の会合に招かれた元国土交通省技監、国土技術研究センター理事長の大石久和さん(64)は熱く語った。「国土に働きかけることによって国土から恵みを得る」が持論。「交通、治水、農業などの基盤を整備し持続可能な国土として後世に引き継いでいかなければ」とも。

▽…日生町（現備前市）出身。1年ぶりの岡山だが、ゆっくりもできず翌日には客員教授を務める和歌山大（和歌山市）へ。9月から観光学部で“観光国土学”を教えている。「どういう国土をつくり暮らしてきたか、住んでいる人がその暮らしぶりを見せて初めて観光になる」と、とことん持論にこだわる。ふるさとは「いかに岡山に人を集められるかは、住み続ける誇りをどう発信するかにかかると期待を寄せる。

を共有、連携を強化するのが目的。文部科学省の本年度「大学教育充実のための戦略的・大学連携支援プログラム」に採択され、3カ年計画で取り組む。岡山理科大にセンター事務局を設け、事業分野ごとに岡山大（学士力向上）、中国学園大（社会人基礎力向上）、岡山商科大（地域発信力向上）に「サテライトオフィス」を設置。当面、4大学の優れた取り組みをネット配信などを通じて共有化を図る。

関連研究成果を一堂に発表

岡山理科大など加計グループがフォーラム



岡山理科大、倉敷芸術科学大、吉備国際大、千葉科学大、九州保健福祉大など全国展開する加計学園グループ各々が研究成果を披露する「OUSフォーラム2009～基礎から応用・未来技術への出会いと対話～」が11月20日、岡山市中区浜の岡山プラザホテルで開かれた＝写真。

約350人が参加。波田善夫岡山理科大学長が「フォーラムを通じて研究の活性化、研究成果の社会への還元を図りたい」とあいさつ。理科大総合情報学部建築学科の瀬川輝夫教授による産学連携の取り組み事例発表や「生命・検査薬・動物」「バイオテクノロジー・機能性食品・化学」「福祉・健康・医療機械」「環境・自然・省エネルギー」「ものづくり基盤技術」「建築・生活・教育」「制御・IT・エレクトロニクス」「ものづくりを革新するシミュレーションの世界」の8分野73研究が披露され、審査の結果、4件が奨励賞に選ばれた。

奨励賞は次の通り。かっこ内は代表者。

疾病の診断や予防を目的とした金属錯体の開発（尾堂順一理学部生物化学科教授）アクティブ補装具の開発とその制御に関する基礎的研究（藤本真作工学部知能機械工学科准教授）鋼構造柱梁接合部の塑性変形能力に関する性能比較実験（山崎雅弘総合情報学部建築学科准教授）新たな糖質甘味剤の開発に挑む分子計算シミュレーション（直

教育研究、文化活動の助成対象募る

福武教育文化振興財団

福武教育文化振興財団（福武總一郎理事長）は来年度の「教育研究助成」と「文化活動助成」の対象事業を募集している。教育研究助成は、学力・人間力の育成、コミュニケーション力の育成、学校・家庭・地域教育力の育成の3分野で研究や活動をしている県内の学校園に所属する教職員、地域グループなどが対象。助成額は、個人・グループは上限20万円、学校園全体の教職員が構成員となって研究する場合は上限50万円。文化活動助成は、伝統文化振興、文化芸術活動、地域文化創造の3部門で活動している団体・個人。助成額の上限は30万円。

締め切りは来年1月31日。問い合わせは、同財団事務局（086・221・5254）。

ビック東海の子会社に

倉敷ケーブルテレビ

倉敷ケーブルテレビ（KCT、倉敷市中島）は、親会社の出版業・ぎょうせい（東京）が所有する全株式を総合通信業のビック東海（静岡市）に4日付で譲渡、同社の子会社になると発表した。

ビック東海が発行済み株式総数の50%を28億200万円で購入。ぎょうせいの関連会社でKCT株の48.38%を持つケーブルテレビ（CATV）会社・エルシーブイ（長野県諏訪市）も子会社化し、KCTの98.38%の株式を握る。

ビックはグループ会社を含めて東海、関東地方でCATV会社6局を運営。事業領域の拡大とともに、コンテンツの共有化などで各社の相乗効果を発揮していく方針。

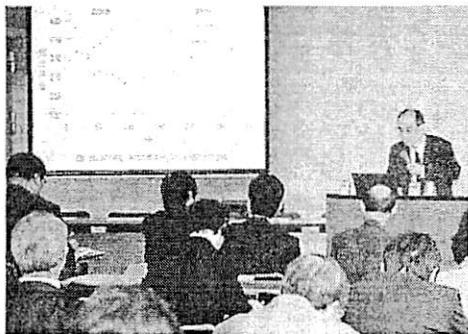
倉敷市役所で記者会見した同社の早川博己社長によるとKCTに役員2人を派遣。社長には4日付でビックの高田稚彦常務が就任し、現在の坂本万明社長は副社長となる予定。従業員78人は引き続き雇用し番組の制作方針も当面継続する。

KCTは1984年設立。資本金4億円。倉敷、玉野、総社市をエリアに約8万3000件（世帯普及率37.9%）の加入があり、売上高29億1400万円（2008年6月期）。

ビック東海は77年設立。資本金約22億円。02年ジャスダックに上場。連結売上高429億円（10年3月期見通し）。

授業評価 教育改善に

北区15大学連携 シンポ



近年多くの大学が取り入れている学生による授業評価の効果や目的を議論するシンポジウムが14日、北区伊島町の県生涯学習センターであった。大学教員ら約70人が参加。基調講演した立命館大教育開発推進機構の安岡高

志教授は「授業評価アンケートを教員評価だけでなく、大学教育改善に有効活用すべきだ」と訴えた。写真。岡山大や岡山理科大など県内15大学が連携して大学活性化を図る「岡山オルガノンの構築」事業の第一弾。安

岡教授は授業アンケートでは、教授よりも若い講師の方が評価がよくなる点を指摘。30代と60代の教員で比べたとき、話し方や板書の項目で差が広がると分析し、「教員の年齢が高くなるにつれ、授業中に同じ話を繰り返したり、学生に権威的になり、学生に理解できない言葉を多用する傾向がある」と述べた。

その上で、「『授業評価アンケートを用いて大学教育を改善する』というビジョンを、ベテラン教員も含めた全教職員がもつことが重要といえる」などと話した。【松井豊】

県内15大「岡山オルガノン」事業第1弾 遠隔授業スタート

テレビ会議システム活用

県内15大学がカリキュラムを共有する教育システム「岡山オルガノン」事業の第1弾として、テレビ会議システムを活用した遠隔授業が9日、始まった。本年度は岡山商科、川崎医科大学、倉敷芸術科学の3大学が前・後期で計5科目を配信する。

岡山商科大(岡山市)

北区津島京町)で開始式。3大学に加え岡山、川崎医療福祉の計5大学を同システムでつなぎ、関係者が意見交換した。

初講義は川崎医科大学が「基礎環境医学」を配信。同大教室の26人とともに、岡山大で1

人が受講した。遠隔授業は単位互換の対象で、前期の2科目は2大学の3人が履修する予定。リポートの提出などはインターネットのメールを活用する。

まとめ役の大学教育連携センター(代表校・岡山理科大)の木村宏センター長は「特色ある授業を共有するだけでなく、大学教員の指導力向上にも役立てたい。将来的には市民も参加できる形にしたい」としている。

同事業は文部科学省の戦略的大学連携支援プログラムとして2009年7月スタート。11年度までの3年計画で、09、10年度は計約1億5千万円の補助を受けた。今回のテレビ会議システムの導入費は約2800万円。

(伊丹友香)

本報HPに動画

5大学をつないだテレビ会議（岡山商科大）



テレビ会議システムを使った「岡山オルガノン事業」のライブ型遠隔授業が、岡山県内の5大学で始まった。各大学の優れた授業を共有し、大学教育の向上を目指すもので、9月から15大学に拡大する。

ライブ型遠隔授業開始

岡山オルガノン事業 9月から15大学に

岡山市北区津島京町の岡山商科大で開始式が行われ、大学関係者約60人が参加。同大の井尻昭夫学長、同システム設置のコーディネーターを務めた佐藤裕二NTT西日本岡山支店長らがテープカットした。

この後、同大を配信元に岡山大、川崎医大、川崎医療福祉大、倉敷芸術科学大をつなぎ、テレビ会議をデモンストレーション。川崎医大の「基礎環境医学」の授業が配信され、岡山大で1人が受講した。同事業では、テレビ会議システムで県内15大学をつなぎ、リアルタイムで授業を配信。双方向なので、教員への質問や学生同士のディスカッションもできる。ハイビジョンに対応しており、黒板やレジュメの文字もはっきりと読み取れるという。

今年度は、岡山商大の「経営学特殊講義Ⅰ・Ⅱ」、倉敷芸科大の「倉敷まちづくり基礎論・実践論」など5科目を配信。現在、5大学で配信しているが、9月以降は15大学すべてで受講できる。

今後、教員や大学職員の研修、地域住民が参加できる公開講座などへの活用も期待されている。

同事業は09年度から始動。文科科学省の「大学教育充実のための戦略的連携支援プログラム」に採択され、8千万円の助成を受けた。岡山理科大を中心に「大学教育連携センター」を構成し、同年度はインフラ整備を行った。

平成22年(2010年)4月14日

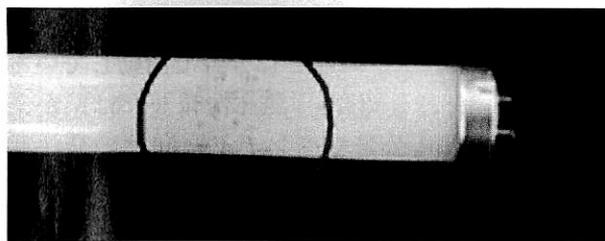
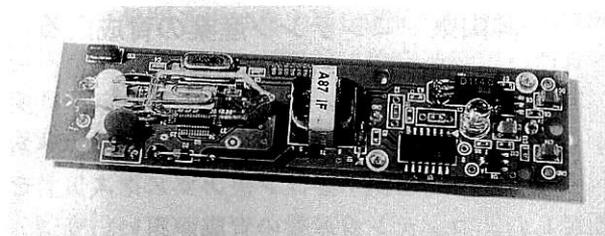
300人超。グループ旅行の集合場所などとしても定着しつつあり、「地元のおいしい料理が食べられるお店を教えて」と飛び込んでくる観光客もけっこういるという。

岡山市の歴史や文化、観光をテーマにした講座も週1回、水曜日に開いており、いっぱいらしい。「10月以降は内容や開催形態を変えてより多くの人に岡山市の魅力を知ってもらおう」(同協会)。

また、隣接する広場も活用して観光・文化に関するイベントや物産展を開いてにぎわい創出したいが、こちらの方はまだ4月に鳥根県の津和野町左鏡社中の公演1件のみ。市経済局の甲斐充局長は「他部局とも連携して数多くのイベントを」と工夫していく口ぶり。

LED蛍光灯内蔵型など3種

アンテックが火災センサー新製品



火災センサーなど製造のアンテック(瀬戸内市邑久町)は、炎感知型の火災センサーの新製品、LED(発光ダイオード)蛍光灯内蔵型=写真、ダウンライト取付型、スピーカー・フラッシュライト内蔵型の3製品を10、11日、大阪で開催され

る第4回「地域防災防犯展」に出品の後、本格販売を始める。

LED蛍光灯内蔵型は、センサーなど心臓部を横長のものに改良、細長い蛍光管に収まるようにした。炎を感知すると無線を通じて通報する。1本5万円程度(予定)と割高だが、LED照明メーカーと連携して商品化、販売する。

ダウンライト取付型は本体が直径9センチ、奥行き16.5センチの円筒型。炎を感知すると表面パネルが赤色に点滅して知らせる。スピーカー・フラッシュライト内蔵型は直径16センチ、奥行き9センチ、音と光で警告する。価格はダウンライト取付型が5万円、スピーカー・フラッシュライト内蔵型が10万円を予定しており、介護施設や病院のトイレへの設置を想定する。年間計1万個の販売を見込む。

岡山県内15大学が連携シンポ

岡山理科大で12日

岡山県内15大学の連携シンポジウム「大学連携で地域を変える」が12日午後1時から、岡山理科大(岡山市北区理大町)で開かれる。大学教育の充実に向け、文部科学省の支援を受けて進めている「岡山オルガノン」の連携事業の一環。

両備グループの小嶋光信代表が「地域連携の継続実現に向けて」で基調講演。シンポジウムではパネリストの小嶋代表、笹野寛・新庄村長、森泰三・一宮高教諭、岡山大経済学部生で倉敷小町の森山梨花さんが、地域が大学に求めるものなどについて意見交換する。ファシリテーター(進行役)は倉敷芸術科学大教育研究支援センターの小山悦司所長。会場は25号館理大ホール。定員は先着450人、参加無料。

問い合わせは岡山理科大の岡山オルガノン大学教育連携センター(086・256・9771)。

発進・加速はゆるやかに。エコドライブに心がけよう。

Drive Your Dreams. 人、社会、地球の新しい未来へ。



岡山トヨペットから「プリウス」誕生!!

世界トップクラスの低燃費!!
燃費 **38.0km/ℓ**
※10・15モード燃料消費率(国土交通省審査値)

プリウスL 車本体価格 **205.0万円**
無段変速機

Photo:プリウスL

新型プリウスも大幅減税!!

HYBRID + 低燃費エンジン + 自動ブレーキ → **100% 減税**

排ガス規制▲75% 燃費基準+25%

約144,500円も減税!!

プリウスL 減税試算例

自動車重量税	約56,700円
平成21年4月1日～平成24年4月30日まで	
自動車取得税	約87,800円
平成21年4月1日～平成24年3月31日まで	

岡山トヨペット 本社/岡山市北区伊福町1-20-12 ☎(086)252-5115(代)

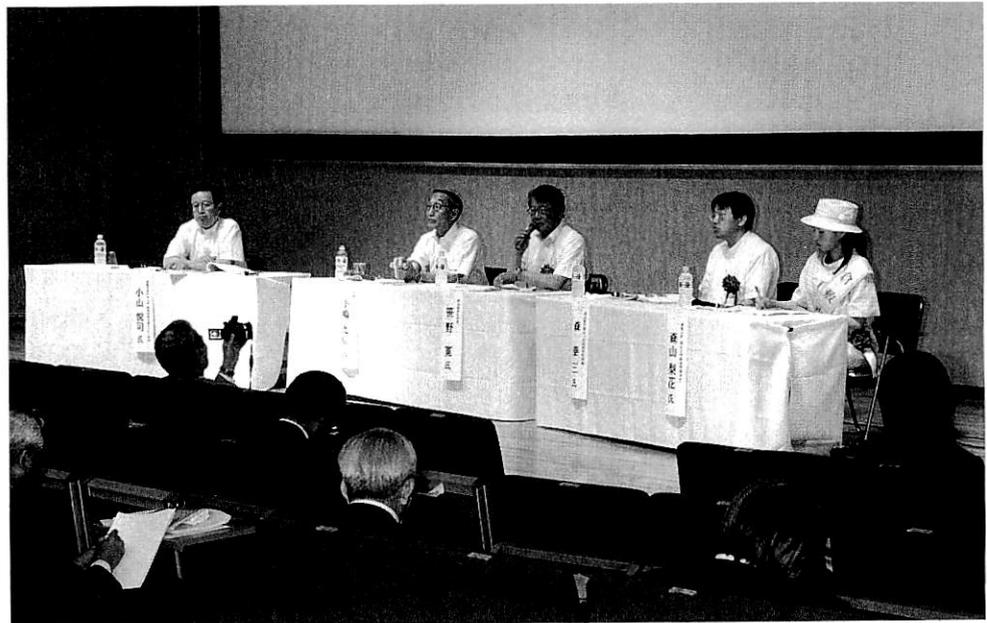
- リサイクル料金が別途必要となります。
- 価格には、保険料、税金(消費税を除きます)、登録などに伴う諸費用は含まれておりません。
- 車両本体価格は、スペアタイヤ(またはパンク修理キット)、タイヤ交換用工具付の価格です。

◆大学連携シンポジウム「大学連携で地域を変えろ」 12日後1時、岡山市北区理大町、岡山理科大第25号館8階。両備グループ代表の小嶋光信さんが「地域連携の継続実現に向けて」と題して基調講演、シンポジウムなど。無料。岡山オルガノン大学教育連携センター(086-256-9771)

大学連携で地域を変える

岡山の15大学がそれぞれの優れた取り組みを共有し合う「岡山オルガノン」連携の一環で、12日に岡山理科大で開かれたシンポジウム。テーマは「大学連携で地域を変える」。基調講演した両備グループの小嶋光信代表も参加、自治体、教員、学生の立場からパネリストが、「大学はどうあるべきか」「地域が求める大学とは」などを語り合った。(文中敬称略)

岡山オルガノン・シンポジウム



地域が求める大学像について意見交換

ファシリテーター(進行役)

小山 悦司

倉敷芸術科学大
教育研究支援センター所長

パネリスト

小嶋 光信

両備グループ代表

笹野 寛

新庄村長

森 泰三

一宮高教諭(地理)

森山 梨花

岡山大経済学部学生(倉敷小町)

小山 岡山オルガノンは15大学が連携、地域活性化の担い手となる人材育成や、新たな地域貢献を実現していく取り組み。企業や自治体、高校などそれぞれの分野の方から意見を聞き、この取り組みをより進めていきたい。

笹野 新庄村はがいせん桜や出雲街道新庄宿、ブナ林の毛無山、県内外に浸透してきたヒメノモチなどで知られる。約1000人が住んでいる。65歳以上は大体40%ぐらい。これから先、持続可能な地域としてやっていけるかどうか。大学の力をぜひお借りしたい。大学も実行するところまで踏み込めば、真に地域が求める大学になるのではないかと。農山村はいろいろな意味で研究テーマになると思う。

小山 農山村地域は大学にとって格好の“教材”にもなるということか。

笹野 大学と地域が真に密接になれば地域に明るさが出て、私たちの生きがいにもなる。地域課題の解決に向け、具体的な行動を。

岡山オルガノン・シンポジウム

森 高大連携の視点で事例を交えて話したい。一宮高は昨年、文部科学省から5年間支援をいただく「スーパーサイエンスハイスクール」に再指定された。共同授業や講演会などいろいろあり、「スーパーサイエンスラボ講座」では地学分野の大学研究者に授業に来てもらい、提供してもらったデータを使って教員が授業する取り組みをした。課題研究の発表では、岡山大や岡山理科大の施設を借り、大学の研究者から直接指導や助言をいただいた。生徒の中には、校内でできない実験を大学の研究室を借りて行い、特許申請までするグループも出た。大学との連携がどんどん進んでいる。

小山 これまではバラバラ。大学に入ってから高校生がこんなはずじゃなかったというケースもあった。これを改善しようと、高大連携が進み、最近は連携から接続へという動きになりつつある。カリキュラムの接続、研究の接続など活発化している。

森 「科学技術コミュニケーション」「科学技術リテラシー」という設定科目をつくるとき、大学の研究者20人ぐらいにアンケートしたが、これには大学と高校の授業を結び付けたいという意図があった。アンケートを基に授業を構成し、指導している。大学の研究室訪問や講義の聴講、連携したフィールドワークなども行っている。

小山 森山さんは岡山大の4年生で、倉敷小町でもある。

森山 この場に立てたのは、第27代倉敷小町として観光PRに携わっているからだと思う。昨年7月の倉敷天領夏祭りから1年の任期、「ハートランド倉敷」やハワイ州知事訪問など、さまざまな経験ができた。オーディションを受けたきっかけは、就職活動のための自己分析。小学2年のときに大阪から倉敷に転校してきて、性格は180度変わり、倉敷に感謝する気持ちが強かった。就職では岡山を離れる可能性が高い、ならば今しかないと思って受けた。大学ではテコンドー部に所属、去年は主将もした。関西で活躍する女性選手が少ないこともあって、競技団体からも目をかけられた。これらの活動で感じたことが、西日本の起爆剤になれるようにとの思い。岡山に住む学生だからこそ、いろいろ経験できた。残された時間もフルに使い、積極的に行動したい。

小山 西日本の起爆剤になりたいという頼もしい言葉も出た。若い力で街を元気に、地域を活性

化していくのは大事なことだろう。

小嶋 岡山にこれほどの大学がそろい、学部も幅広い。医学という全国や世界に誇れる分野もある。しかし、今までバラバラにやっていて有機的な活動ができていたか。地域との密接な交わり、産業とのかかわりも薄かったのでは。岡山オルガノンという一つの芽が出てきたことは素晴らしい。いろいろ取り組みを進めてほしいが、まずは互いのことを知ること。15大学が、それぞれの地域がどうなっているのか、なかなか分かり合えない。大事なのは交流だ。(哲学者アリストテレスの著作からネーミングした)岡山オルガノンにちなみ、ここで一つ提案したい。学生に後楽園や閑谷学校など岡山のいいところを見て、学んでもら



小山 ファシリテーター

う「岡山ペリパトス学」のすすめだ。

小山 アリストテレスと弟子たちは「ペリパトイ」という屋根付きの散策道を歩きながら思索にふけていろいろ生み出したという。

小嶋 各大学の先生方で岡山の歴史や

文化、産業などについて1講座をつくり、学生はすべてこれを学び、岡山を熟知して社会に巣立っていく。彼らが東京や大阪で働けば宣伝効果も大きい。アリストテレスはペリパトイをうろうろしながら弟子たちと議論した。机の上だけで勉強しても役に立たない。動くということをキーワードにしなくては。大学が互いに理解、交流しながら新しい連携をしないと、地に足の着いた連携にはなりにくい。

小山 大学に閉じこもるのではなく、動き、経験を踏まえた学問が大学に求められるのではないかとご提言。これまでも岡山学や倉敷学というものはあったが、さらに進めていく必要がある。

笹野 新庄村は2005年に岡山商科大の地域再生支援センターと包括協定を結び、学生と交流して

岡山オルガノン・シンポジウム



小嶋

「岡山ペリパトス学」を

いるが、若い人にどんどん農山村に入ってほしい。若い人のエネルギーが入れば地域は変わる。意見交換し、実行していきたい。

森 高大連携をさらに進める上で、高校はもっと学問を意識させる授業をしたい。専門の学問をするために高校の物理がどう役立つとか、実は国語のこういうところが役立つとかが分かれば、学習意欲もわくだろう。一宮高は大学が近くにあり、地理的条件に恵まれているが、そういう高校ばかりではない。どんな学校と接続できるか、テレビ会議などどういう手段があるか、これからの課題だろう。

小山 物理的、時間的に高校と大学を行き来するのが難しいときに活躍するのがテレビ会議システムだ。岡山理科大はインターネットを活用した先進的な授業に取り組んでいるし、岡山オルガノンでもテレビ会議システムを使った講義や、単位

森

活発化する高大連携



互換システムを進めていく。

森山 先ほどから「動く」という言葉が多く出てきた。行動することは本当に大事。私は入学当初、学問で何をしたいのか分からず、とりあえずテコンドーに打ち込んだ。懸命にしていると、やるべきことが見えてきて、行動することでチャンスもより広がった。このシンポに参加させてもらったのもその一つ。大学生活では、大学をいい意味で利用し、自分なりに生活をカスタマイズしていくことが大切と思う。

小山 大学は地域から何を求められているのか。地域から信頼され、なくてはならない存在になるために、大学はどんな努力をすべきか。いろいろなヒントをいただいた。大学と地域が動くこと、地域を知ること、さらには大学と地域が一体となることなど、いろいろな方向性を見ることができた。もう一度、大学と地域の関係を確認したい。



笹野

若者のエネルギー必要

森山

岡山ならではの経験



岡山駅地下旧三番街「ペスカ」に変身、18日オープン

衣料や雑貨など14店

2006年7月から閉鎖されているJR岡山駅地下の旧三番街をリニューアルした専門店街「P E S C A (ペスカ) 岡山」(岡山市北区駅前町)が、18日にオープンする。第1弾として、国内初登場を含む衣料、雑貨などの14店が開店する。開発主体の不動産管理会社・ウエスト(東京)が8日、明らかにした。

ペスカ岡山の敷地面積は約2400平方メートルで、共用部分の通路を除く店舗スペースは約1200平方メートル。

米・ハワイが本拠地で、kitsonのバッグやアクセサリーを扱う「アンジェルーナ バイ カラーブルー」の日本1号店をはじめ、ルームウェアの「スリーピーベア」、女性ファッションの「エニスイス」「ボナジョルナータ」「リアルセシール」などを誘致。ジェラート店やリラクゼーションマッサージ店なども入る。一部空きスペースにも夏以降、順次テナントを誘致する計画。

10代後半から30代の女性が主要ターゲット。通路床に大理石を使い、ローマの観光名所・トレビの泉を模したオブジェを設けるなどイタリア調の内装。



西岡進社長は「岡山駅西口広場の再整備も完了。長く閉鎖していた地下街を新たなショッピングストリートとして稼働させ、市民の利便性をさらに高め、地域活性化に貢献したい」と話している。

旧三番街は1959(昭和34)年に開業。飲食店などが営業していたが06年6月末で閉鎖された。ペスカ岡山は08年9月に着工し、岡山市の政令市移行と同時期の09年3月のオープンを目指したものの、世界不況と重なりテナント誘致が難航していた。

15キャンパスで「エコナイト」

来月7日、岡山オルガノン

岡山県内の15大学は7月7日夜、キャンパスの明かりを消す「エコナイト」を一斉に実施する。連携センターをつくり、共同で進めている「岡山オルガノン」事業の一環。

午後8時に学内を一斉消灯、各大学が廃食油を使ったキャンドルや蛍光ライトの点灯、環境

についてのミニ講演会など、独自の取り組みを展開する。教職員にマイカーでの通勤自粛も呼び掛け、二酸化炭素の排出抑制を図る。

エコイベントもそれぞれ行い、岡山大は6月26日に自然エネルギーや地域活性化をテーマにした公開シンポジウム、吉備国際大は7月9日にも地元高校などと一体となった一斉消灯を計画。全体では6月末、ペガサスキャンドル(倉敷市西阿知町)が廃食油を主原料に開発したキャンドル用ワックスの製造現場も見ると見られる。

式典・講演会、オプションツアーなど 県中小企業団体中央会55周年記念事業固まる

岡山県中小企業団体中央会の創立55周年記念事業の概要が固まった。10月22日、岡山市北区駅元町の岡山コンベンションセンターで記念大会を開催、10~11月に中国、台湾からの誘客にオプションツアー「おかやまメディカル・地場産業ツーリズム事業」を実施する。

記念大会は午後1時半から。功労者表彰、講演

会を予定、地域経済をテーマとした講師にする。終了後、懇親会も予定する。

大会に合わせて同センターホールで、会員が中央会の支援を受けて開発した新製品などを展示する「ITソリューション&おかやまビジネスマッチングフェア」、留学生の地場企業への就職を橋渡しする「アジア人財マッチングフェア」を行う。屋外広場では岡山経革広場推進協議会がインターネットで運営する「Okayamaスタイルショップ」の出品商品を展示販売、会員組合、食料産業クラスター、食品産業協議会などによる

鳥取 島根 岡山 広島 山口 徳島 香川 愛媛 高知

中国・四国

入試 Topics

私立大

就実大

**教育学と心理学の新しいコラボ
「教育学部」2011年4月に誕生!**

就実大は、「教育学部」(初等教育学科75、教育心理学科60)を開設す

る。入学定員は2学科で135人。

初等教育学科は、「教え導く教育」に焦点を当て、教育力に優れた人材を育成。専門性の高い初等教育・幼児教育を学ぶための充実した学習プログラムを用意。教育心理学科は、「支えケアする教育」を目標に、カウンセリングマインドを身につけた人材を育成。心のケアができる養護教諭や特別支援学校教諭の養成の他、一

般企業で求められている人間関係力に優れた人材の育成をめざす。

特色は、力点が異なる2学科の相互補完的なコラボで教育・研究に相乗効果が生まれること。また教育実践研究センターの子育て支援事業等への参加で、学生の実践力にいつそう磨きがかかることなど。

「去華就実」の教育理念のもと、誠実で人間性豊かな教員を養成する。

キャンパス News

国私立大

山口大

**「おもしろプロジェクト」
昨年度活動の報告会を開催**

山口大では4月17日にメディア教育棟で「おもしろプロジェクト'09報告会」が開催された。このプロジェクトは、学生たちの自主的・創造的な企画に対して大学が資金援助をし、その活動を支援する制度だ。

昨年度のプロジェクトに採択されたのは、ロボット大会に出場、ソーラーカーの製作、不登校や育児支援のボランティアなどを目的とした10団体。スクリーンを使った各団体の報告ではプレゼンテーションの中に動画を盛り込んだり、活動風景がよくわかる写真を入れるなど、聴衆をひきつける工夫がされていた。大学側も、学生に新たな発見を見出してもらいたいとの考えから、発表に対して多くの質問を心がけたという。

プロジェクトは1996年度にスタートしたが、最近では地域との連携、大学の開放といった社会貢献性を視野に入れて活動しているのが特徴。

学生たちは発想を形にしようとする試行錯誤の中から、困難に出合ったときの対処方法や精神力、仲間と

の協調性などを学んでいる。

鳴門教育大

**研究センターで予防教育の
プログラムを開発**

鳴門教育大は昨年、予防教育科学教育研究センターを開設した。センターの仕事は大きく3つに分けられる。その1つは予防教育プログラムの開発。学校適応分野では、いじめや不登校、校内暴力など学校における現代的課題に対処するために、心身健康分野では生活習慣病やうつ病を中心ターゲットとして、プログラムの開発に取り組んでいる。

2つ目は、プログラムを実際に学校で適用する際の実施者となる先生の研修が行われる。この研修後には、各学校でプログラムを実践し、その効果評価を科学的に行いながらプログラムの改善と普及を推進していく。

さらに、同大学と大学院の学生に予防教育プログラムに関する教育を行い、将来のプログラム実施者を育成する試みを同時に進めるという。

同センターでは学校との連携を最も大切にしており、昨年度は県内の小中高校6校で、心身の健康や生活習慣病の予防、円滑なコミュニケーションを身につけるなどをテーマにした授業が行われた。

岡山商科大／川崎医科大 ／倉敷芸術科学大

**テレビ会議システムを
活用した遠隔授業を開始**

岡山県内の15大学(代表校・岡山理科大)がカリキュラムを共有する教育システム「岡山オルガノン」事業の目標は、学力・社会人基礎力・地域発信力を向上させること。この取り組みの第1弾として、テレビ会議システムを活用した遠隔授業が4月から始まった。

今年度の開講は計5科目で、前期は岡山商科大の「経営学特殊講義Ⅰ」を3名、川崎医科大の「基礎環境医学」を1名の学生が双方向ライブ型遠隔授業として受講している。後期には「経営学特殊講義Ⅱ」と、倉敷芸術科学大の「倉敷まちづくり基礎論・実践論」が行われ、15大学の同時接続が開始されるので、受講者の数は増える予定という。

離れた大学にいても授業ができるシステムの遠隔授業の導入により、学生の移動の必要が解消された。また、VOD (Video On Demand)型 e-learningでは、大学や自宅のパソコンを使って、どこでも録画された授業を見て受講することができる。

県内15大学がカリキュラムを共有する教育システム・岡山オルガン事業を運営する大学教育連携センター(岡山市北区理大町)は10月から、学生がインターネットを通じ、いつでも自由に視聴できるビデオ・オン・デマンド(VOD)方式による講義を始める。

県内15大学の連携センター

睡眠学(川崎医療福祉大)、アルゴリズム入門(岡山理科大)、スポーツ産業論(吉備国際大)でスタートする。講義は事前に岡山理科大のスタジオなどで撮影した各15回分を用意。学生は割り当てられたIDを使い、大学や家庭のパソコンから受講する。来年度は全大学が科目を用意し20科目をそろえる。

ネット通じ講義を自由に視聴 VOD方式来月開始 遠隔授業の設備も増強

オルガン事業のもう一つの柱として、4月から始めた、テレビ会議システムを活用する遠隔授業の設備も増強。専用サーバーを設置し、同時接続地点を従来の6から15に増やしたことで、全大で授業を共有できるようになった。木村宏センター長は「ハード整備はほぼ終了。来年度は科目数を充実させ、優れた人材を育てたい」としている。

オルガンは国の事業として2009年7月にスタート。11年度末までの3年計画で、1億5千万円の補助を受けている。

(内田圭助)

大学連携組織が
活性化へシンポ

来月2日、岡山

県内15大学の連携組

織・岡山オルガニンは
10月2日午後1時か
ら、「第1回地域活性
化シンポジウム」を岡
山市北区津島京町の岡

山商科大で開く。

地域活性化と大学の
役割をテーマに、県内
5大学の教授がそれぞ
れの取り組みを発表。
和気町や笠岡諸島で進
んでいる施策の現状や
課題を地元住民や行政
関係者がパネルディス
カッションする。

参加無料。テレビ会
議システムで中継する
倉敷芸術科学大(倉敷
市連島町西之浦)くら
しき作陽大(同市玉島
長尾)山陽学園大(岡
山市中区平井)でも参
加できる。問い合わせ
は岡山商科大(08
6-256-667
0)。

学生と住民交流を

県内15大学
連携組織
活性化へシンポ

県内15大学の連携組織「岡山オルガノンは「第1回地域活性化シンポジウム」を2日、岡山市北区津島京町の岡山商科大で開いた。



地域活性化に大学が果たす役割について意見交換するパネリスト

地域振興に大学が果たす役割について研究者や、地域おこしに取り組む住民らが意見交換した。

5大学の教官が産学連携事業などを発表。藤高邦宏・倉敷芸術科学大教授は、倉敷市の商店街に設けた大学の出先機関「まちなかきやんばす」で、学生らが食生活のアドバイザーなどをする取り組みについて話した。大学教員のチームによる地域

研究の成果も披露された。

パネルディスカッションでは、過疎地区の振興策を住民らが報告。和気町丸山・山

使用倉敷芸術科学大、くらしき作陽大、山陽学園大にも中継された。(黒崎平雄)

方区の片倉博・集落機能再編強化委員長が「イベントに若いボランティアが来てくれれば高齢者はもっと元気になれる」と訴えた。

コーディネーターの多田憲一郎・岡山商科大教授は「教員や学生は地域に向くことで研究の幅が広がり、住民にとっても刺激になる」と強調した。

約50人が聞き入り、テレビ会議システムが

取材逸話

岡山商工会議所西大寺支所（岡山市東区西大寺中）が、西大寺地区の情報を発信する「サイちゃん通信」（A4版）＝写真＝を始めた。

創刊号は、両面印刷で、表には支所のメンバー8人を顔写真入りで紹介。裏側には、



「西大寺の史跡」のコーナーをつくり、西大寺観音院の瓦「皆足姫」を取

西大寺から情報発信

り上げ、「日曜日の午前中であれば観光ボランティアさんからユーモアたっぷりの話を聞くことができる」といったワンポイント情報を盛り込んでいる。また、「となりのキラリ☆さん」のコーナーでは、村上心理税理士が紹介されている。

2カ月に1回、約500部作成する予定で、事業所を回る際になどに配るといふ。ホームページからも見ることができる。松田克義支所長は「職員が掘り起こした地元情報を発信していく。事業所を巡ってフェース・トゥー・フェースでコミュニケーションを図っていく際のツールに使える。役立ててもらえるよう、中身を充実させていきたい」と話している。

「地域活性化と大学の役割」のシンポジウム 岡山オルガノンが岡山商大で



県内15大学で組織する「岡山オルガノン」の初めての地域活性化シンポジウムが2日、岡山市北区津島京町の岡山商科大で開かれた。各大学の活動報告やパネルディスカッションを通じて「地域活性化と大学の役割」を探った＝写真。

倉敷芸術科学大、くらしき作陽大、山陽学園大、岡山理科大、岡山商大が地域と連携しての授業や研究の現状を、後半は岡山商大経済学部が多田憲一郎教授をコーディネーターに、まちづくりに取り組んでいる倉敷商工会議所副会頭の岡莊一郎氏、和気町丸山・南山方区集落機能再編強化委員長の片倉博氏、笠岡市経済観光活性課統括の守屋基範氏によるパネルディスカッションが行われた。

岡氏は市内の大学と連携して商店街の振興を進めている実情を説明した上で、「ボランティア活動に対する単位認定など学生が参加しやすい環境整備」を要望、片倉氏は「鳥獣害対策やコストのかからない景観保全策などについて大学の知恵を

借りたい」と述べた。守屋氏は行政の立場から「大学の知恵やマンパワーを効果的に活用するためには行政のコーディネイト能力を一層高める必要がある」とした。

岡山オルガノンは、大学が連携して「地域発信力」「学士力」「社会人基礎力」を高めることを目的に2009年度から活動中。今回のシンポジウムの模様はオルガノンのテレビ会議システムを活用して倉敷芸科、くらしき作陽、山陽学園の各大学にも配信された。

学生と連携して「エコアクション2010」

就実大、地球温暖化対策アピール



就実大（岡山市中区西川原）は地球温暖化対策をテーマに「エコアクション2010」を1日、キャンパスで開催した＝写真。電気自動車をはじめ省エネ機器の展示、玉野市出身の作家の高嶋哲夫氏の講演など多彩、環境保全を学生や市民にアピールした。

大学と学友会との協働事業、2回目。岡山県、中国電力、岡山ガス、京セラソーラーFC岡山

大学教育テーマ
来月9日シンポ

岡山で連携組織

県内15大学の連携組
織「岡山オルガノン」
は来年1月9日午後1

時から、岡山市北区津島中の岡山大創立五十周年記念館で、シンポジウム「学生と社会をつなぐ大学教育の質保証」を開く。

「シユーカーツを考える」職業教育義務化の中で」と題し、東京大大学院の本田由紀教授が講演するほか、岡山大キャリア開発センター副センター長の三浦孝仁教授が「岡山大のキャリア支援」をテーマに話す。パネルディスカッションもある。

無料で定員400人。事前申し込み(086-251-8513)が望ましいが、当日参加もできる。

まちづくりに携わろう

倉敷芸術科学大 実践者を招き講義
芸科大

倉敷芸術科学大(倉敷市連島町西之浦)は、

まちづくり団体のリーダーらを講師に招いた講義を開いている。実践に基づいた教えは「説得力がある」と学生らに好評。県内15大学が連携した「岡山オメガノン」事業の一つにもなっており、岡山などの学生もテレビ

会議システムを使って

受講している。

講義は「倉敷まちづくり基礎論」と「実践論」。まちづくりに携わる若い世代の育成を狙いに2010年10

月から毎週土曜日、同市川西町の大学関連ビルなどで開講している。

基礎論は倉敷商工会

議所の岡荘一郎会頭、建築家の檜村徹氏ら倉



まちづくりをテーマにした倉敷芸術科学大の講義。倉敷市川西町

敷のまちづくりに尽力する人たちのほか、再開発事業に成功した高松丸亀町商店街振興組合(高松市)の古川康造理事らが講師を務めた。

実践論はJR倉敷駅や同駅前商店街、美観地区に向き、現実のまちを学習の場とする。若者の目線で魅力を感じる場所を探したり、車いすに乗って障害者の立場でバリアフリーの課題をチェックしたりした。今後、「駅前に車いすを誘導する看板が無い」といった改善点をまとめ、倉敷市に提言する。

倉敷芸術科学大では1年生13人が受講。芸術学部メディア映像学科の梶藤将司さん(18)は「リーダーたちの話からまちづくりへの熱意が伝わってくる。自分も将来、まちづくりに関わっていきたい」と話している。

(安田祐二)

「キャリア教育変革を」

就職内定率
低下を受け

9日、岡山大でシンポ

県内大学連携

岡山大学など県内15大学の連携組織「岡山オルガノン」は9日、北区の岡山大学創立五十周年記念館で就職活動と大学教育をテーマにしたシンポジウムを開く。県内大学生の就職内定率が大きく低下するなかで、キャリア教育について大学全体で捉え直す狙いだ。オルガノンはアリストテレスの著作に由来し「大学教育の基礎とな

る原動力」を意味する。県内大学生の就職内定率は、10年11月末段階で過去2番目に低い50・9%。08年秋のリーマンショック以降の景気回復は遅れ、09年度同期で51・1%と2年連続で超低水準のまま推移。国の雇用政策も満足な効果をあげておらず、未内定者が続出している。

岡山オルガノン・岡山大オフィスによると、最近の厳しい就職事情を受けて、一部の担当職員に偏りがちだったキャリア教育を大学全体で捉え直す必要がある。そこで提案されるのが「単なる就活テクニクではなく、大学の学びの一環としてのキャリア教育」だという。就活と大学教育を切り離すのではなく、結びつける発想だ。

シンポジウムでは

「シユーカーツを考える職業教育義務化の中で」と題し、東京大大学院の本田由紀教授が基調講演。この他、大学のキャリア教育担当者の講演、就職活動テーマに取材を続けるジャーナリストの石渡嶺司氏などによるパネルディスカッションが予定されている。

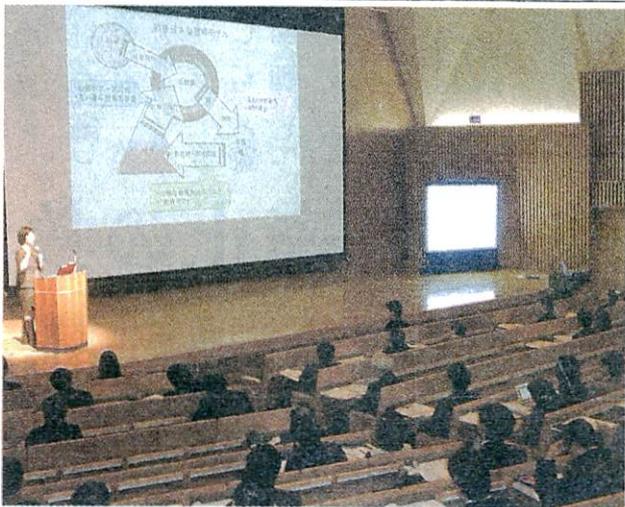
入場無料。問い合わせは同オフィス(086・251・8513)。

【石戸諭】

人材育成の役割議論

県内15大学
連携組織 岡山大でシンポ

「学生と社会をつなぐ大学教育の質保証」を
テーマに開かれたシンポジウム



県内15大学の連携組織「岡山オルガノン」は9日、岡山市北区津島中の岡山大創立50周年記念館で、シンポジウム「学生と社会をつなぐ大学教育の質保証」を開き、大学が果たす人材育成の役割などについて約200人

が聞き入った。東京大大学院の本田由紀教授が「シニョカッスを考える」をテーマに基調講演。現在の労働市場について「世界的なコスト競争の中、法律や人権を踏みにじ

る働かせ方が増大している」とし、在学中の採用活動を抑制しないしは禁止するなど、現在の就職活動システムの是正が必要と訴えた。岡山オルガノン岡山大オフィス代表の橋本

勝教授が進行役を務めたパネルディスカッションでも「就職活動の早期化と長期化は学業の圧迫を招いている」「(社会人としての能力を身に付ける)キャリア教育の定義をきちんと定めるべきだ」と

いった意見が出た。

このほか、岡山大キャリア開発センター副センター長の三浦孝仁教授が、同大のキャリア教育の取り組みについて講演した。

岡山オルガノンは、文部科学省の戦略的大学連携支援プログラムとして2009年にスタート。11年度までの計画で、各大学の特色ある講義をテレビ会議で中継するなどしている。(竹久祐樹)

向けの受注が増加し、緩やかに持ち直している。

個人消費は緩やかに持ち直しの動きがみられる。エコカー補助金の終了で乗用車販売が前年を大幅に下回ったが、大型小売店販売は、残暑の影響でスーパーが飲食料品を中心に好調。家電もエコポイント制度変更前の駆け込み需要で液晶テレビなどが伸びた。

雇用情勢は、製造業を中心に新規求人が増加するなど有効求人倍率は低水準ながら上昇。設備投資は自動車などで増加の一方で、石油・石炭や鉄鋼が減少し、全体では前年度を下回る見通し。

コンソーシアム信州と岡山オルガノンが連携 岡山商大などでフォーラム配信受ける

長野県内の大学で組織する「高等教育コンソーシアム信州」と「岡山オルガノン」との連携の一環として、コンソーシアム信州のフォーラムの様子がインターネット回線を通じて1月28日、岡山商科大(岡山市北区津島京町)、岡山大(同津島中)などに流された=写真。

コンソーシアム信州が県外のサテライト会場を募集、岡山オルガノンが応じた。信州大全学教育

機構の加藤鉦三教授ら4人が信州大などから事例を報告。その後、岡山も含め全国9カ所のサテライト会場を含めたパネルディスカッションが行われ、「双方向性をどう確保し、受講生らにどう情報を伝えるか」などについて話し合った。

聴講した岡山商大の大崎絏一副学長は「信州は授業だけでなく就活などにもシステムを利用しており、参考になった」と感想。岡山オルガノンの佐藤大介コーディネーターは今回の取組について「複数の大学で構成する組織同士の連携は全国的にも珍しい。今後の新しい連携の可能性が広がった。今後、こうした事例は増えると思う」と評価した。



聖書にも登場する トレハロース

旧約聖書「出エジプト記」に記された、人々が飢えを凌いだマナという食物の一種に trehala manna があり、それにはトレハロースが含まれており、それが語源と言われています。

2 生物の復活に かかわっている

クマムシやネムリユスリ蚊の幼虫はカラカラに乾燥していても、水を加えれば復活します。この驚異の復活現象はトレハロースが乾燥から細胞を守る働きをしているからです。

7 元気な昆虫たちの エネルギー源

蜂やイナゴなどの昆虫は、長い距離を飛んでも、跳ねても全く平気。小さな体のどこにそんなエネルギーがあるのか不思議ですが、これらの昆虫の血糖はトレハロースなのです。

4 トウモロコシなどの でん粉から

林原が世界で初めて酵素技術を使い、不可能と言われていたでん粉からのトレハロースの大量生産に成功。安価で安定な供給が可能となり、その利用が広がっています。

5 食品以外に、 化粧品や医薬にも

食品のうま味を引き立て、品質を維持する夢の糖トレハロースは、食品だけでなく、化粧品、入浴剤、繊維、消臭剤、植物活性剤、臓器保存液など幅広い分野で利用されています。

林原の
トレハロースは、
みんなの周りで
いろんな食品を
おいしく
しているのじゃ。

CMキャラクター
宇宙人のお父さん

トレハ[®]

つの不思議

●「トレハ」は高純度含水結晶トレハロースの商品名で林原の登録商標です。

林原グループ 岡山市北区下石井1-2-3 TEL(086)224-4311 <http://www.treha.jp/>

文部科学省 平成21年度「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」選定取組 「岡山オルガノン」の構築 —学士力・社会人基礎力・地域発信力の融合を目指した教育—

Okayama
Organon

岡山県内15大学
単位互換

岡山県内15大学の授業が、自分の大学で受けられます。

遠隔講義システムを活用した新しい「単位互換制度」実施中!

ライブ配信科目 高画質対応のテレビ会議システムを利用して直接移動せず他の大学のライブ授業を受講できます。

大学名	岡山大	岡山県立大	岡山商科大	岡山理科大	川崎医科大	川崎医療福祉大	倉敷芸術科学大	くらしき作陽大	山陽学園大	中国学園大
科目	大学と社会	音楽の鑑賞	経営学特殊講義 (岡山経営学)I-II	岡山学	個人・社会と 医療者	哲学	倉敷まじくり基礎論 倉敷まじくり実践論 まじくりのターンオフ	特別支援教育 総論	宗教思想	現代子ども学 入門

e-ラーニング科目 インターネットを利用して大学や自宅のパソコンで録画された授業を受講できます。

大学名	岡山県立大	岡山商科大	岡山理科大	川崎医療福祉大	吉備国際大	くらしき作陽大	山陽学園大	就実大	中国学園大
科目	解析学I	パーソナルファイナンス: 金融資産運用・不動産I	環境と社会 インターネット入門 アールゴリズム入門 環境考古学	睡眠学	スポーツ産業論	音楽療法概論 食心理学	現代中国論	日本人の思想 日本美術史b	運動生理学

※2011年2月15日現在

遠隔授業システムを使えば、連携大学の授業を在籍している大学や自宅から受講できます! 学生さんのキャッシュポイントの充実の源は「授業」にあります!
3月末から来年度春からの単位互換履修生の募集が始まります! 詳しくは岡山オルガノン公式ホームページ!

岡山オルガノンの取組

**学士力
育成のための取組**

共同FD・SD活動の実施:教職員の教育力向上のための取組
教員の授業改善や職員の職務遂行能力向上などを目的として、連携大学が共同で、研修会やシンポジウムを行っています。

**社会人基礎力
育成のための取組**

自己実現能力の醸成:実践的キャリア教育の展開
実践的キャリア指導チームを新たに組織し、実践マナー&ビジネスマインド講座や社会人基礎力養成シンポジウムなどを開催しています。

**地域発信力
育成のための取組**

環境啓発活動の実践:エコナイトの実施
連携大学で7月にエコナイトイベントを実施しています。内容は各大学の学生が中心に企画を進め、様々な環境やエコに関する催しが行われます。全大学共通の取組として、マイ・カー・乗るまゝDay(自家用車の使用を控える運動)や一斉ライトダウン(七夕の夜20時に照明や電化製品の電源を一斉に切る運動)を行っており、今年は県内の関係機関等と連携してさらに拡大して実施したいと考えています。
地域貢献活動:連携大学が取り組みを知る地域活性化シンポジウムの開催
連携各大学では、個々に地域と協働して様々な研究活動・貢献活動を展開しています。こうした大学の取組を地域の方に広く知っていただくとともに、地域における大学のあり方についても議論を行っています。

オルガノン「organon」とは、元来「学問を構築する上で基礎となる機関・道具」という意味です。本取組では「大学教育の基礎・原動力」と解釈しました。

各大学が持つ特色を生かし、大学間の連携によりさらに強化していくことで、地方大学の活性化と再生につなげていきます。

岡山オルガノン 大学教育連携センター 〒700-0005 岡山県岡山市北区理大町1-1 岡山理科大学内 TEL/FAX.086-256-9771 info@okayama-organon.jp
岡山オルガノン公式ホームページ <http://okayama-organon.jp> サテライトオフィス:岡山大学・岡山商科大学・中国学園大学

連携大学
岡山理科大学(代表校)
岡山大
岡山県立大
岡山学院大
岡山商科大
川崎医科大
川崎医療福祉大
環太平洋大
吉備国際大
倉敷芸術科学大
くらしき作陽大
山陽学園大
就実大
中国学園大
ノートルダム清心女子大

関係自治体・団体等
岡山県、岡山県教育委員会
社団法人 岡山経済同友会
山陽新聞社

岡山同友会ボランティアプロフェッサー
地域金融・保険テーマ
 岡山商科大で前期開講



ボランティアプロフェッサーの講義を聴く学生たち

岡山経済同友会(岡山市北区厚生町)の会員らが中心となって大学で講義する本年度前期のボランティアプロフェッサーが18日、岡山商科大(同津島京町)で始まった。

前期のテーマは「金融・保険企業における『地域での金融・保険の役割』」。開講式では、同友会の中島基善代表幹事が「講師も一生懸命準備するので、皆さんも真剣に学んでほしい。社会人になった時に役立ててもらえればありがたい」とあいさつ。初回は山陰合同銀行(松江市)の小田光則常務山陽・兵庫

営業本部長が担当し、254年の学生約140人が聴講した。

小田氏は、日本経済と密接な関係のある米国や欧州、中国の経済情勢について解説。震災で多くの工場が被災し生産活動が混乱していることにも触れ、「製造業の割合が高く交通インフラが整っている岡山は、日本経済の復興において重要な役割

を担うだろう」と指摘した。

経済学部3年溝渕弘幸さん(24)は「実際に社会で働く企業の方の話は興味深く、勉強になった」と話していた。前期は7月末まで。広島銀行、百十四銀行、日本生命保険、明治安田生命、三井住友海上火災保険の支店長や支社長らが講演する。

(小若菜美)

工作や実験

子ども大学

26日、岡山商大

県内大学の連携組織「岡山オルガノン」は26日午後1時から、岡山市北区津島京町の岡山商科大で、親子で工作や理科の実験などを楽しむ「日よび子ども大学」を開く。

保育や教育に関する研究や活動に取り組む8大学がブースを設置。紙ロケットなどを作る工作教室、ジャグリングや綱渡りといったバランス感覚や集中力を養う遊びを行い、男の子育てや子どもの性格について学ぶコーナーも設ける。「大学連携による地域活性化」をテーマにしたシンポジウムも開く。

いずれも参加無料で、申し込み不要。問い合わせは岡山オルガノン岡山商科大オフィス(086-256-6670)。

26日、商大でシンポと学生も子ども大学 岡山オルガノン

岡山県内の15大学で組織する岡山オルガノンは「大学連携による地域活性化」をテーマにしたシンポジウムを26日、岡山市北区津島京町の岡山商科大学学生会館で開く。初めて学生も企画に加わり、8大学の学生が勉強の一端を紹介する「日ようび子ども大学」も併催する。

シンポジウムは川崎医療福祉大ボランティアセンターの西本哲也副センター長が同ボランティアセンターの取組について基調講演し、これを受け倉敷芸術科学大教育研究支援センターの小山悦司所長をコーディネーターに岡山大、倉敷芸科大、岡山理科大、川崎医療福祉大の学生5人がボランティア活動を報告、他大学との連携について意見を出し合う。

子ども大学には岡山県立大、岡山商科大、岡山理科大、川崎医療福祉大、倉敷芸科大、山陽学園大、就実大、中国学園大が参加。オリジナル遊具によるスポーツ遊び（県立大）、お金の使い方（岡山商科大）、体を使った絵画教室（倉敷芸科大）、手軽にできる実験・工作（岡山理科大）などを実施。安全・安心や子育て、子どもの気質について

意見交換する保護者向けのメニューもある。

シンポジウム、子ども大学とも午後1時～4時10分。参加無料、事前申し込みも不要で、希望者は直接会場へ。問い合わせは岡山オルガノン岡山商科大オフィス（086・256・6670）。

岡山大の技術移転

岡山 TLO

技術移転機関の岡山 TLO（岡山市北区芳賀）は8日、がん治療などに役立つ抗体をニワトリの細胞から作る技術を、岡山大から同大発の医薬系ベンチャー・免疫工学研究所（同市中区中井）に移転した。

ニワトリの免疫をつかさどる「B細胞」の遺伝子を一部組み換え、ヒト型の抗体を作る細胞に転換する技術。この細胞を培養すれば、がんやウイルスなどの異物を攻撃する抗体が効率的に得られるという。

岡山大大学院自然科学研究科の大森斉教授と金山直樹准教授が開発し、昨年11月に特許出願した。免疫機能を生かした抗体医薬は次世代の医薬品として注目されており、免疫工学研究所は転換したB細胞を製薬会社などに販売する方針。

件数：11件 (前年同月6件)

負債総額：477億3300万円
(前年同月7億8900万円)

帝国データバンク岡山支店調べ（法的整理のみ）

建設が5件でトップ。次いで製造とサービスが各2件、卸売と不動産が各1件。販売不振が10件で不況型が大半を占めた。負債額は1億～5億円未満が4件、10億～50億円未満が3件、5000万円未満が2件、100億円以上と5000万～1億円未満が各1件。自己破産申請や破産手続きの開始決定を受けたケースが8件、民事再生（2件）と会社更生法（1件）の適用申請もあった。資本金別は1000万～5000万円未満が6件、100万～1000万円未満が3件など。

【大型倒産】 林原グループの不動産管理会社・太陽殖産（岡山市北区下石井）は、東京地裁に会社更生法の適用を申請し、更生手続の開始決定を受けた。負債総額は417億5800万円。

鶏肉卸の岡山県プロイラー（岡山県鏡野町下原）と食鶏加工の岡山県食鶏農業協同組合（同）は、岡山地裁津山支部に民事再生法の適用を申請した。負債総額は計34億4700万円。

医療法人浄風会（真庭市下河内）は、岡山地裁津山支部から破産手続開始の決定を受けた。負債総額は約12億円。

●倒産情報(5月)●負債額1000万円以上

件数：16件 (前年同月7件)

負債総額：495億3200万円
(前年同月7億5700万円)

東京商工リサーチ岡山支店調べ（内整理含む）

建設10件、サービス・他3件、農業と卸売と不動産各1件の順。過去のしわ寄せ（4件）が最も多く、販売不振、過小資本、他社倒産の余波（各3件）などがある。負債額は1億～5億円未満が8件、10億円以上が4件、1000万～5000万円未満が2件、5億円以上と5000万～1億円未満が各1件だった。破産（8件）と民事再生法（2件）と会社更生法（1件）を含め法的手続きが約7割を占めた。資本金別は1000万～5000万円未満が11件、100万～500万円未満2件など。

学生の指導で ゲームや実験

岡山・子ども大学

遊び感覚で経済や科学を勉強する「日ようび子ども大学」が26日、岡山市北区津島京町の岡山商科大で開かれた。地元大学に親しんでもらうため、県内大学の連携組織・岡山オクルガノンが企画。親子連れ約500人が学生の指導でゲームや実験に取り組んだ。写真。



色あるブースを設置。岡山商科大のコーナーでは小学生らがおもちゃのお金を数えながら真剣な表情で小遣い帳を付けた。岡山理科大の真空実験では、容器

の中で膨張するマシユマロの様子に驚きの声が上がった。

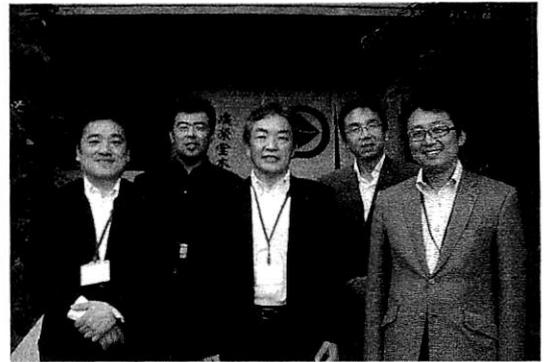
シールを使った岡山市の地図製作(山陽学園大)や紙ロケット作り(中国学園大)なども人気を集めた。総社市立清音小5年平田和さん(10)は「お姉さんたちが優しく工作を教えてくれて楽しかった」と話していた。

大学連携による地域活性化をテーマに、学生らのシンポジウムもあった。(森川進豪)

きびだんごと赤福交流

廣榮堂の武田浩一社長に赤福の濱田典保社長、実弟でマスヤグループ本社の浜田吉司社長、それに寒天の伊那食品工業の塚越英弘専務、イシカワの石河勲社長と菓子業界のリーダーの勉強会が6月23、24の両日、廣榮堂の武田さんがホスト役して岡山であった。3回目。

そもそもは2008年4月に日経流通新聞に廣榮堂がガラス張り屋台経営の見出しで大きな記事になったことが縁。この記事みた赤福の濱田社長が武田社長に接触、社員含めて、行ったり、来りしているうちに定期的集まろうとなり、おにぎりせんべいのマスヤ、菓子卸のイシカワ、ゲル化剤メーカーの伊那食品工業も加わって、「人を大切にする経営」に関する意見交換会が



前列左から石河、武田、濱田氏
後列は左が塚越氏、隣に浜田氏

スタートした。毎年一回、持ち回りで幹事をつとめ、メンバー社に集まる。マスヤ、イシカワに続き、今回は武田さんが世話役になった。

初日藤原店に集合、本社に移り、武田社長をはじめ社員がやっていることをプレゼン、各社で人材育成について情報交換した。夕刻湯原温泉宿に移動、きびだんごの社員も10人近く参加して夜の意見交換した。そのまま宿泊、翌日は勝山の辻本店などめぐり、午後、JR岡山駅で散会した。武田社長は「どの社のリーダーもほぼ同年代。老舗に甘えず経営革新に余念ない。うちの社員も他社のトップと直に話でき、おおいに刺激され、元気をもらったはず。この集まりを大切にしたい」。来年は伊那食品で予定。

日ようび子ども大学

岡山オルガノンが岡山商大で

「日ようび子ども大学」が6月26日、岡山市北区津島京町の岡山商科大であり、キャンパスに親子連れの歓声が響いた=写真。大学連携組織、岡

山オルガノンが開いた。

県立大、岡山商科大、岡山理科大、川崎医療福祉大、倉敷芸術科学大、山陽学園大、就実大、中国学園大の8大学の教員、学生が企画して悪天候にもかかわらず約500人が参加。体を使ったお絵かき教室では大学生の体をなぞった枠の中を子どもたちが手や筆を使って思い思いの色を塗り、ピカソ

暑中お見舞申し上げます



三菱電機株式会社 代理店
岡山宮地弘商事株式会社

〒702-8603
岡山市南区福成2-20-25岡山機工センター内
TEL 086-263-2220
FAX 086-263-2228
www.okayama-miyachi.co.jp

小林機工株式会社

<http://www.kobaki.co.jp/>

小話 ねじり人ぼろ

朝日が協力、阪神―横浜戦
大入り

1日、倉敷マスカットスタジアムで行われた今季岡山唯一のプロ野球公式戦阪神―横浜戦が2万8249人(主催者発表)の大入りだった。阪神球団と岡山日日新聞社の主催、朝日新聞社がチケット販売に協力した。他の新聞社の主催試合のチケット販売協力は異例だが、阪神球団の説明によるとチケット完売を目標にし、花火の打ち上げや来場者全員に応援メッセージ入りのクッションをプレゼントするなど販促努力を講じたが、東日本大震災の影響もあって苦戦。「高松でのオープン戦主催実績を持つ朝日にお願ひすることにした」という。5月の連休明けから調整に入り合意、朝日新聞は内野自由席と外野自由席のペアチケットを割引料金で販売し、6月上旬から自社の折り込み広告や系列の瀬戸内海放送のCMなどで猛烈にアピールした。結果、当日の入りは観客数を実数で発表することになった2007年以降最高を記録。わずか1カ月足らずの期間に朝日が販売した枚数は販売店関係者によると5000枚ともいわれ力を発揮した。朝日新聞社は試合当日、本社からも含め十数人の視察団を送り込むなどやる気満々。阪神、岡日は「来年のことは」で慎重。

もびっくりの抽象画ができあがった。おこずかいをためたり、増やしたりできるゲームでは学生スタッフらの助けを借りながらの経済教室になった。子ども大学とは別コーナー、ボランティア分野での「大学における活動と大学連携」の現状について教員、学生が報告を行い、今後について話し合った。

岡山オルガノンは文部科学省の助成金を受けて2009年度から地域発信力、学士力、社会人基礎力の向上などの分野で県内15大学が連携してきた。

本年度が最終年度、成果は大学コンソーシアムに引き継ぐ予定。



暑中お見舞申し上げます

**4年ぶりに
屋上OPEN**

**2011
夏**

スカイビアガーデン

2011

8/31(水)まで開催 ※花火大会当日は除く

17:30~21:30 (オーダーストップ 20:00)

月火水木 予約営業 ※前日までに要予約

金土日祝 通常営業

セットプラン (飲み放題120分付)

お一人様 **3,300円**

枝豆・春巻・串揚げ・唐揚げ・春雨サラダ
おでん/合鴨トマト煮/生野菜添え
明石焼風館かけ

その他、単品メニューもご用意しております。

ご予約・お問い合わせは **TEL.086-273-3900**

岡山国際ホテル
OKAYAMA INTERNATIONAL HOTEL
〒703-8274 岡山市中区門田本町4-1-16

岡山国際ホテル

お得な **Summer Ticket 2011**
(5,000円で5,500円分) 好評販売中

**カスカテル
テラスバーベキュー**

9/25日まで開催

17:00~21:00 (オーダーストップ 20:00)

お一人様

《バーベキューセット》 **3,000円**

セット内容 おつまみ・牛肉・鶏肉・豚肉
野菜の盛り合わせ・ライス

飲み放題プラン(120分)や、その他
単品メニューもご用意しております。

ご予約・お問い合わせは **TEL.086-273-7311**
カスカテル

8名様以上の乗車で無料送迎バスをご用意いたします

<http://www.okayamakokusaihotel.jp/>
E-mail info@okayamakokusaihotel.jp

やさしい明かり楽しんで

北区 ライトダウンイベント

七夕の7日夜、電気を落としてろうそくの明かりを楽しもう

と、北区柳町2の山陽新聞社さん太ホール前広場で「七夕ライトダウンinおかやま2011」が開かれた。

東日本大震災の影響で節電が呼び掛けられていることもあり、ライトアップ施設や家庭の電気を消すことで、エネルギーの大切さを考えるきっかけになればと市が企画した。会場には約500本のろうそくが並び、七夕の夜をやさしい明かりが

る本

包み込んだ。

岡山大学など県内15



七夕の夜彩
ろうそく500本

の大学が連携し、大学内の照明を落としてろうそくの明かりで夜を楽しむ「エコナイト」を実施するなど各地で節電を意識したイベントがあった。

【原田悠自】

七夕の夜をやさしい明かりで包むろうそく—北区で

診療時間

午前9時30分～午後1時
午後2時～午後6時まで
水曜日・日曜日・祝日は
休診致します

医療法人

第一セントラルビル
クリニック

医師/砂山有生
岡山市北区本町(高島屋南隣第一
セントラルビル6階) ☎223 4515

遠隔授業に双方向性を

県内15大学連携組織シンポ



遠隔授業が教育の質向上に果たす役割について意見交換する大学教員

県内15大学の連携組織「岡山オルガノン」は30日、公開シンポジウムを岡山市北区理大町の岡山理科大で開いた。テーマはテレビ会議システムなどを活用した遠隔授業が教育の質向上に果たす役割。県内外の大学教

員が学生ニーズへの対応法を探ったほか、具体的な活用報告もあった。

金沢大学教育開発・支援センターの青野透教授が「遠隔授業の双方向性と学生の学習意欲」と題して基調講演。教員と学生、学生

同士の意見交換の重要性を強調し、「インターネット上の電子掲示板や質問票の活用が有効」と訴えた。

学生の要望を聞いて外部講師を決めた対面型授業(岡山大)、事前作成した教材など複数の映像を合わせた遠隔ライブ授業(川崎医科大)、小テストやアンケートを盛り込んだビデオ授業(岡山理科大)の事例報告もあった。進行役の和賀崇・岡山大教育開発センター准教授は「学生の意見を取り入れる工夫は、普段の授業にも生かせる」と強調。教職員ら約100人が聞き入った。

岡山オルガノンは2010年度から大学間のテレビ会議システムを使って特色ある講義を中継している。

(黒崎平雄)

単位互換や遠隔講義

県内15大
連携組織 報告会で実績発表

県内15大学の連携組織「岡山オルガノン」は3日、岡山理科大(岡山市北区理大町)で事業報告会を開き、各大学が単位互換制度などの実績を発表した。

教職員を中心に約110人が参加。波田善夫岡山理科大学長(岡山オルガノン事業推進代表者)が「各大学が競争、協力して進めてきた事業。報告会を新たなスタートとし、岡山の大学教育のさらなるレベル向上につなげたい」とあいさつした。

発表では、テレビ会

議システムを導入して他校の講義を同時に受けられる遠隔講義をはじめ、連携する大学間で履修した講義を単位として認定する互換制度などの取り組みを紹介した。

岡山オルガノンの事業は、県内産学官でつくる「大学コンソーシアム岡山」が提案。国の助成対象に選ばれ、本年度までの3年間、テレビ会議システムの構築などを進めてきた。2012年度からはコンソーシアム岡山が事業を引き継ぐ予定。(久岡広和)

オルガノン事業 継承など決める

コンソーシアム

岡山代表者会議

県内16大学と岡山経済同友会、県の産学官でつくる大学コンソーシアム岡山(会長・井尻昭夫岡山商科大学長)の代表者会議が20日、岡山市理大町の岡山理科大で開催。3月で改編する、大学間連携組織「岡山オルガノン」の事業継承など2012年度の事業計画を決めた。

約30人が出席。テレビ会議システムを使い遠隔授業などを行ってきたオルガノンの事業を、コンソーシアムの

3事業部5委員会に再編、統合。連携する大学間で履修した講義を単位に認定する単位互換制度の拡充、大学生が企業や団体で就業体験する県経営者協会のインターンシップ事業引き継ぎなどを盛り込んだ事業計画案を承認した。

(久岡広和)

平成21年度大学教育充実のための戦略的連携支援プログラム【岡山オルガノン】の構築 — 学士力・社会人基礎力・地域発信力の融合を目指した教育 —

文部科学省選定事業『岡山オルガノン』の3年間

岡山県内15大学の連携組織「岡山オルガノン」。文部科学省と自治体・各種団体の支援を受け、最先端の遠隔講義システム導入、FD・SD（大学教職員の資質向上）活動、キャリア教育、日ようび子ども大学、エコ活動等の事業を「15大学の連携」で3年間にわたって実施。平成24年度からは、「大学コンソーシアム岡山」に事業を継承し、一層の発展をめざします。

e-Learningシステムを使って 他大学の授業をうけちゃおう!!

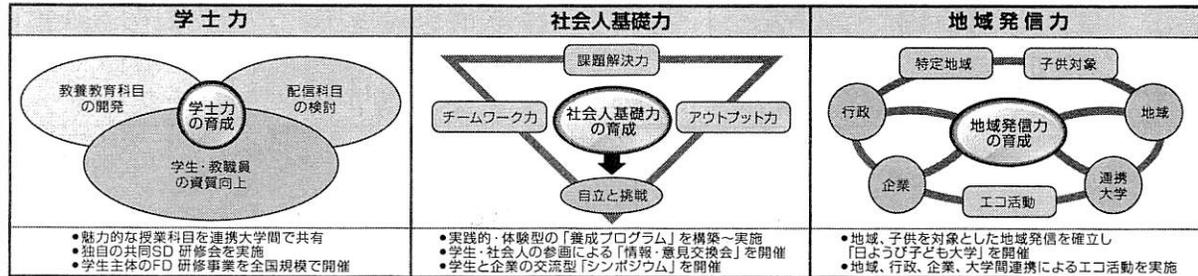


ライブ型遠隔授業について
他大学で行われている生の講義を自分の所属大学に
いながらにして、同タイミングで受講することができます。

VOD型遠隔授業について
インターネットが使える環境であれば、いつでもどこでも、
好きな時間、場所で講義を受講することができます。

**23年度 岡山15大学連携によりライブ・VODあわせて
受講実績 18科目が配信開始。受講者数はなんと約600人!**

詳しくはこちら → <http://okayama-organon.jp/>



オルガノン「organon」とは、元来「学問を構築する上で基礎となる機関・道具」という意味です。本取組では「大学教育の基礎・原動力」と解釈しました。

- 連携校15大学**
- 岡山理科大学(代表校)
 - 岡山大学
 - 岡山県立大学
 - 岡山学院大学
 - 岡山商科大学
 - 川崎医科大学
 - 川崎医療福祉大学
 - 環太平洋大学
 - 吉備国際大学
 - 倉敷芸術科学大学
 - くらしき作陽大学
 - 山陽学園大学
 - 就実大学
 - 中国学園大学
 - ノートルダム清心女子大学

岡山オルガノン 大学教育連携センター 〒700-0005 岡山県岡山市北区理大町1-1 岡山理科大学内 TEL/FAX.086-256-9771 info@okayama-organon.jp
サテライトオフィス: 岡山大学・岡山商科大学・中国学園大学 岡山オルガノン公式ホームページ <http://okayama-organon.jp/>

関係自治体・団体等
岡山県、岡山県教育委員会
社団法人 岡山経済同友会
山陽新聞社